

新たな景色

宮崎西高等学校 2年
瀬戸口 麗

大事なふるさとを奪われた得能さんの人生

13歳まで色丹島に住んでいた得能さん。ソ連軍が色丹島に侵入して来しばらくはソ連軍やその家族と共に過ごしたそうですが、その後ソ連軍の船で樺太まで連れて行かれたそうです。ソ連軍は正当な理由もなく不法に侵入をし、しまいには現地に住んでいる人たちの人生も奪いました。すべてを奪われ深い悲しみに包まれたが、それでも生きるために前を向く元島民の得能さん。ふたたびこのようなことが起きないために、そしてたくさんの人に北方領土問題について知ってもらうために様々な活動を行っています。

「5世6世へとこの問題について受け継いでいくことは大切だが、君たちの代である4世でなんとか返還につなげてほしい。」この得能さんの言葉は私に語り掛けているように聞こえたのと同時に、得能さんの一つ一つの言葉には熱い思いが込められているように感じました。



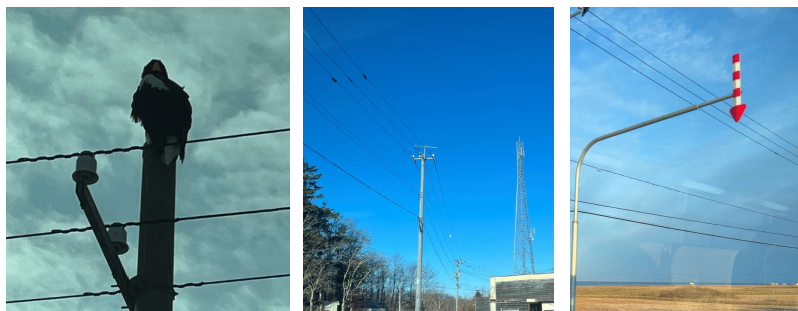
中間線の向こう側にある景色とは

根室市にある納沙布岬と貝殻島の間に中間線と呼ばれる日ロ中間ラインがあり、それを越えロシア主権領域に侵入すると、臨検・逮捕される恐れがあります。現在その日ロ中間ライン問題で注目されているのは、ロシア主張領域にある貝殻島の『貝殻島灯台』です。87年前に建設されたこともあって壁の一部が欠けていたり、傾いていたりなど今にも崩れそうな状況だそうです。もし貝殻島灯台が崩れたら、日本とロシアの領土問題はより深刻なものになるかもしれないと望郷の家の副館長はより深しやっています。また、2023年7月以降ロシア国旗が灯台に設置されたり9年ぶりに点灯が確認されるなど変化が相次いでいます。ロシア側は少しづつ動いてきているため、日本側もよりこの問題について意識していかねければならないなと思います。



絶滅危惧種を守るために...

これは「止まり木」と呼ばれるもので、絶滅危惧種に指定されているオオワシが電柱に触れて感電などしないために電柱の上部に設置されているものです。



雪国でしか見れないもの

走っているといたるところに設置されいたのが「矢羽根」と呼ばれる矢印の形をした標識でした。矢羽根は歩道と車道のちょうど境界に設置されているため、除雪車が矢羽根の下を通過して雪を取り除いていくそうです。

研修の感想

根室市を実際に訪れたことで宮崎では感じる事ができない新たな世界をたくさん見ることができました。北方領土問題に触れて胸が痛くなることも多々ありましたが、日本が抱える一つの問題として向き合い、様々な視点から考えることがいかに重要であるかを改めて感じました。北方領土返還に向けて大きな活動を起こすことは難しいかもしれませんが、しかし、北方領土問題の背景、また現状についてたくさんの人達に知ってもらい、少しでも早く北方領土返還に繋がられるよう伝えていきたいと思えます。